

## 狩野 勇教授を偲んで

経済学部長 湯 沢 威

今春に体調を崩されたとの情報をえて、病院にお見舞いに伺ったが、その時の先生は元気そのもので、大学のこと、学問のことに熱弁をふるっておられた。壁に掛けた洋服を指して、一日も早く大学に戻るつもりだとおっしゃっていたが、この姿は丁度、幼児が遠足の日を心待ちしているかのようにも見えた。狩野先生にとっては、学習院は生きがいの場であり、幼児の遠足の対象以上のものであったにちがいない。狩野先生は学習院をこよなく愛しておられた。

5月の連休明けに、奥様を伴って大学にお見えになった。その時の同僚の印象ではまだ完全に回復されていないのではないかとのことであった。先生が再入院されたのはその3日後であった。今となって思えば、狩野先生は最後の力を振り絞って大学にお見えになったことになる。

同僚と病院にお見舞いにいったのは、お亡くなりになる前日であった。その時は、われわれは闘病されているお姿を拝見しつつ、一日も早い回復を願って病院を後にしたが、それが最後になるとはよもや思いもしなかった。平成6年5月20日、再入院されてわずか1週間のうちに狩野先生は還らぬ人となった。

狩野先生は、昭和26年に東京商科大学（現・一橋大学）を卒業され、東洋大学経済学部を経て、昭和43年4月学習院大学経済学部に教授として赴任された。爾来26年の長い間、本学の教育・研究に多大の功績を残された。担当科目は、原価計算、管理会計、演習などであり、先生の誠実な人柄と学問を慕って多くの学生が受講し、優秀な人材として社会に巣だっていった。また公認会計士、税理士などの資格取得のためのコースを主催し、専門職をめざす学生のために献身的に努力された。

狩野先生は、『原価計算』（春秋社）『現代の原価計算』（新評論）、『現代の工業会計』（春秋社）『企業会計講話』（白桃書房）などの著書をあらわし、また多くの論文を発表された。これらは社会的にも高く評価されている。

また先生は学内行政の面でも多大の貢献をされた。学生部長、理事、学科主任などを経て、昭和59年から62年まで財務担当常務理事としての重責を果たされた。今日の学習院の財務基盤を確立した功績はきわめて大きく、平成5年に完成した新しい法学部・経済学部棟もそれ以来の蓄積によるところが大きい。

狩野先生は、経済学部のシニア・メンバーとして、教授会、科会で積極的に発言していただいた。先生の発言は、豊富な経験に裏打ちされたものであり、常に重みをもっていた。現在、大学は大きく変わりつつあり、狩野先生のアドバイスをもっとも必要としている時に、本学部にとってははかけがえのない重鎮を突如失うことになった。われわれ同僚としては痛恨の極みである。

本号は、狩野先生の学恩に感謝するとともに、先生の遺徳を偲んで編集されたものであります。ご霊前に捧げ、ご冥福をこころよりお祈り申し上げます。

（平成6年7月7日）